栃木・樺崎寺（かばさきでら）跡

1　所在地　栃木県足利市樺崎町

2　調査期間　一　二〇〇四年（平16）八月～三月、二　二〇〇五年六月～二月

3　発掘機関　足利市教育委員会

4　調査担当者　足立佳代・伊地知隼外・板橋　稔

5　遺跡の種類　寺院跡

6　遺跡の年代　鎌倉時代～江戸時代

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

樺崎寺跡は、足利市街地の北東約四・五kmに位置し、樺崎川により形成された小支谷に八幡山を背に東面する堂宇が展開する、足利氏の菩提寺・廟所跡である。樺崎寺は源姓足利氏二代目の足利義兼が文治五年（一一八九）の奥州合戦の戦勝祈願のために創建したとされ、この頃に最初の堂舎が建立された

（桐生及び足利・栃木）

と推定される。樺崎八幡宮本殿の南東前面には、中島と立石景石をもつ東西約七〇m南北約一五〇mの浄土式庭園が営まれた。

発掘調査は一九八四年度より継続して実施され、八幡山山麓の堂塔跡や浄土庭園跡、僧坊跡などが確認された。二〇〇一年一月には国の史跡に指定されている。

発掘調査の結果、園池は大きく四期の変遷があることが確認されている（第一期は創建期から鎌倉時代まで、第二期は鎌倉時代から南北朝時代まで、第三期は南北朝時代から江戸時代まで、第四期は江戸時代から明治時代まで）。

一　記念物保存修理事業第四年次調査

二〇〇四年度は、主に中島の西南部分について調査を行なった。その結果、園池第三期において、池底から西岸にかけての立ち上がりの状況が確認され、池岸には、池側へゆるく下がる斜面にチャートの割石が敷かれている状況が確認された。園池第三期の堆積土中には、瓦やかわらけのほか、柿経や漆塗椀などの木製品も多く含まれていた。柿経は、両面に『大毘盧遮那成仏神変加持経』を書写したもの（一(2)(3)）が数十本束になった状態で出土したほか、法華経を両面に書写したもの（一(1)）が出土している。

二　記念物保存修理事業第五年次調査

二〇〇五年度は、主に岬西岸及び園池北西部について調査を行なった。園池第三期における岬西岸の護岸には五～一五cm大のチャー

トの割石が敷かれており、また岬がやや入り組んだ部分には三〇～四〇㎝の大ぶりの石が景石として据えられている状況が確認された。園池北西部は岬が西側へ広がっていることから、池幅が北へ行くにつれ次第に狭くなり、池の北端で北からの水路とつながっているものと思われるが、今回の調査で、池の北端から東へ七ｍ程ずれた位置で南北方向の溝が検出された。この溝は第三期当初の岬の西岸を壊して南の園池へとつながっており、第三期当初の池がある程度埋まった段階で掘られていることが確認された。この溝の埋土からは室町期の瓦・かわらけのほか、梵字で「バン」と書かれた柿経（二(4)）が出土している。過去の調査における「バン」字柿経の出土状況（本誌第二六、二七号）からも、この溝は一五世紀頃に掘られたものと考えられる。また三期の池の堆積土中からは瓦・かわらけ、漆塗椀のほか、両面に法華経が書写された柿経（二(1)～(3)）が出土している。

両面写経の柿経については、法華経のほかに、今回新たに『大毘盧遮那成仏神変加持経』を書写したものが確認された（一(2)(3)）。これまでの調査で本遺跡の園池から出土した柿経の総点数は小片も含めると二七〇〇点以上に及ぶ。その中には未整理のものもあるため、改めてそれらの経文を見直し、どのような経典が書写されていたのか確認する必要がある。

8　木簡の釈文・内容

一　記念物保存修理事業第四年次調査

(1)
・「如是之妙相昔所未聞見為大徳天生為仏出世間
・「於昔無量劫空過無有仏世尊未出時十方常闇瞑
（24中18～19・24下6～7）(197)×11×0.6　019

(2)
・□言善男子諦聴転字輪漫荼羅行品真言
・南麽三曼多勃馱喃一阿
（22中18～19・22下8）(139)×12×0.2　081

(3)
・諸菩薩能作仏事普現其身尓時執
・同寿命同種字同依処同救世者
（22中19～20・22下7）(122)×11×0.2　081

(1)は上端を山形に削り、下端は欠失。両面に『妙法蓮華経』巻第三「化城喩品第七」の経文が書写されている（以下、法量の上に『大正新脩大蔵経』における頁・段・行を示す。『妙法蓮華経』は第九巻、『大毘盧遮那成仏神変加持経』は第一八巻）。(2)(3)は上下両端ともに欠失。両面に『大毘盧遮那成仏神変加持経』（大日経）巻第三「転字輪曼荼羅行品第八」の経文が書写されている。

二　記念物保存修理事業第五年次調査

(1)
・「阿修羅所見知識阿難常為侍者護持法」
・「法蔵然後得阿耨多羅三藐三菩提化二」
(29中27～28・29下7～8) 234×11×0.6　011

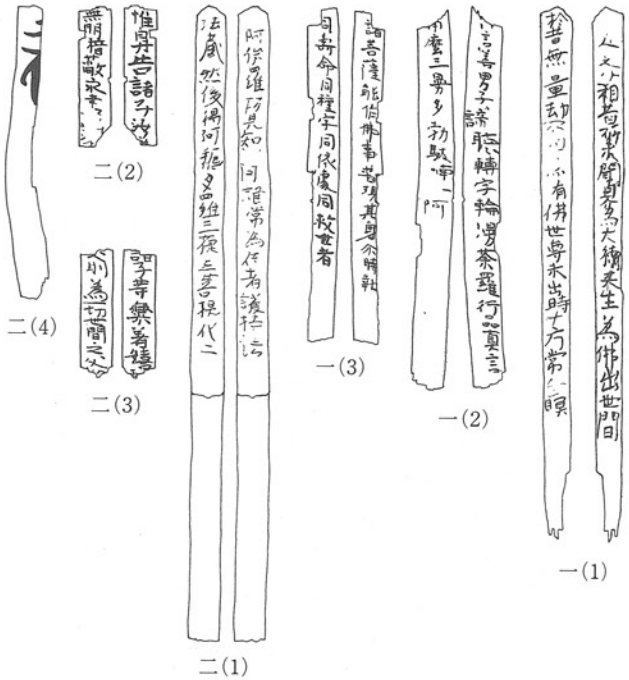
(2)
・惟具告諸子汝□
・無明暗蔽永□□
(12中29・13上13) (51)×11×0.2　081

(3)
・諸子等楽著嬉□
・□則為一切世間之父□
(12下1・13上12) (48)×12×0.2　081

(4)
(バン)
𑖩
(108)×12×0.2　061

(1)は上下両端ともに残存し、上端は山形に削る。両面に『妙法蓮華経』巻第四「授学無学人記品第九」の経文が書写されている。(2)(3)は上下両端ともに欠失。両面に『妙法蓮華経』巻第二「譬喩品第三」の経文が書写されている。内容的に(2)(3)はこの順で連続する。(4)は上下両端ともに欠失。片面に大日如来を示す梵字「バン」が一字墨書されている。

9　関係文献

足利市教育委員会『平成十六年度文化財保護年報』(二〇〇六年)

(板橋　稔)